

文化財 NEWS

こちらの QR コードから、閲覧・ダウンロードができます→



文化財パトロール ～ 下郷町 ～

文化財パトロールは、域内の文化財を後世に守り伝えていくことを目的に行われているものです。県から委嘱された文化財指導員が文化財の保存管理状況を確認し、助言をしています。

6月26日(木)下郷町において、福島県指定文化財である「銅製鰐口(湯野上小野観音堂)」、「八幡のケヤキ(中山)」の文化財パトロールを行いました。

どう せい わに ぐち
銅 製 鰐 口

鰐口とは、神社や仏堂の正面軒先につり下げられた、参詣者が縄でたたいて鳴らす仏具です。下方の部分が、ワニの口に似ていることから名づけられたとされます。

この鰐口は、室町幕府創立直後に作られたもので、康暦三年(1381年)の文字が刻まれています。面の直径が48.5cm、重さが5kgと、県下でも珍しく価値の高い鰐口です。



<八幡のケヤキ>

沼山温泉

はちまん
八幡のケヤキ

樹齢965年超、樹高36m、幹回り12mの立派なケヤキの木です。

天喜3年(1055年)、八幡太郎義家は、朝廷に反逆していた安部氏を討伐する際に、険しい道に難儀し、二宮氏の家で休息します。抜け道を教え、手厚くもてなしてくれた二宮氏に感謝し、このケヤキを植えたと言われています。

八幡太郎義家(源義家)は、鎌倉幕府を開いた源頼朝や室町幕府を開いた足利尊氏の祖先です。

中山の八幡の大ケヤキ



文化財保存は、貴重な歴史、芸術、生活様式などの遺産を現在に伝え、未来へと継承していくために不可欠です。これにより、私たちは先人の知恵や文化の多様性を学び、地域のアイデンティティを理解することができます。

文化財パトロールを行っているのは、県の文化財保護指導委員である佐藤淳一さんです。佐藤さんは、南会津域内の小学校で校長を務められ、現在は下郷町で飲食店の経営をされながら、会津中街道(江戸時代に整備された、栃木と会津とを結ぶ街道)の研究を中心に、様々な文化財に関わられています。



<文化財保護指導委員の佐藤さん>